

2 建学の精神の普及・醸成に関する事項

本学の建学の精神は「浄土真宗の精神」である。浄土真宗の精神とは、生きとし生けるもの全てを、迷いから悟りへ転換させたいという阿弥陀仏の誓願に他ならない。

迷いとは、自己中心的な見方によって真実を知らずに自ら苦しみを作り出しているあり方である。悟りとは自己中心性を離れ、ありのままのすがたをありのままに見ることのできる真実の安らぎのあり方である。

阿弥陀仏の願いに照らされ、自らの自己中心性が顕わにされることにおいて、初めて自己の思想・観点・価値観等を絶対視する硬直した視点から解放され、広く柔らかな視野を獲得することができる。

本学は、阿弥陀仏の願いに生かされ、真実の道を歩まれた親鸞聖人の生き方に学び、「真実を求め、真実に生き、真実を顕かにする」ことのできる人間を育成している。

このような本学の建学の精神の普及・醸成を図るには、単に頭で理解するだけでなく、「仏の世界」に身をもって触れる契機も必要である。このような観点から2013年度には以下の事業を行う。

○必修科目「仏教の思想」からの展開

「仏教の思想」担当者と宗教部の活動との連携を密にすることにより、本学の建学の精神を全学生に周知することをめざす。宗教部発行の解説冊子「建学の精神」を仏教の思想のサブテキストとして使用し、統一した内容で建学の精神を周知させていく。

○法要・宗教行事の取り組み

建学の精神の理解を促すという教育的意義も込めた法要・宗教行事（朝の勤行、月例法要、降誕会、報恩講、成人のつどい等）を学年暦に定めて実施する。

解を深められるような活動を行う。

- ・顕真週間
- ・降誕会
- ・仏教活動奨学生（懸賞論文）の募集

○宗教講演会の開催

主に礼拝堂を会場として開催する学内外の著名人による講演会（公開講演会、宗教文化講演会、教職員のための宗教部特別講座等）を通じ、地域の方々も含めて、本学の建学の精神を周知していく。

○文書伝道の取り組み

法要・宗教行事、講演会等で行われる法話や講演、教職員・学生によるエッセイや心に響く言葉などを活字にして、本学の建学の精神と教学理念を広く学内外に周知していく。また、前年度、建学の精神をより適切に理解するために明文化した文言を用いて大学構成員に周知徹底を図る。

○礼拝施設の整備

本学は深草・大宮・瀬田の3キャンパスを擁し、各々連携しつつ独自の教学を展開しているが、建学の精神を施設面においても体现すべく、それぞれに礼拝堂を設置している。この施設は常時開放されており、誰もが自由に入って宗教的雰囲気を得られるようにする。

○その他

校友会宗教局6サークル、親和会、校友会等を通じて、在学生・卒業生、さらに地域社会に本学の建学の精神の理



- ・結婚式（三学舎の礼拝堂にて校友を中心に）
- ・物故者追悼法要
- ・阪神・淡路大震災、東日本大震災をしのんで
- ・花まつり